

テッドHバンデンボス

平成12年3月30日
東京・カナダ大使館
および
平成12年4月3日
大阪・カナダ領事館

皆さん、こんにちは！ まず、今回とても素晴らしい皆様方の前でお話する機会を与えて下さった 菊池徹会長と菊池重喜社長にお礼を申し上げたいと思います。

新しいミレニアムを迎えてから早くも3ヶ月が過ぎようとしています。幸い、心配されていたよりトラブルも少なく21世紀に向かっております。Y2Kのトラブルを少しでも和らげるために、世界中で大変な時間、労力、そして費用が使われたにも関わらず、今では誰もミレニアム・バグを「風邪」よりも気にしなくなりました。でも、こんな事はビジネスとしてはよくあることです。皆さんの会社と同じく、金融委員会もY2K問題で支障が出ず、通常の業務を遂行できるよかなりの資産を投入しました。こうした尽力のお蔭で、今、私達は、『用意は万全！』と信じて21世紀を迎えることができます。この『信じる』ということとはビジネスにとって最も重要なことです。特に、健全な金融サービス部門を維持する為には、『信じる』ということは絶対不可欠です。

本日のこの集会は、金融関係の法規や投資の安全性に関し、特に、それがカナダの保険にどう影響するかについて、考える良い機会となりました。私はこの点をじっくりと検討しまして、我々がカナダの金融業界を信じられるのはカナダの監督システムによってもたらされたという結論に達しました。ご存知と思いますが、カナダの金融業界の監督庁は個々の機関を監視すると共に、市場全体の動きに絶えず目を配り、規則がきちんと本来の役目を果たしているかどうかをチェックしています。これは元々は消費者保護の立場から行われていますが、同時に監督庁や投資家・融資家・そしてその他の金融関係者の信頼を高める為でもあります。

人間が安定した環境を好むことは周知の事実です。特にビジネス界に身を置く人はその傾向が強いようです。監督庁の最も重要な仕事は一貫した公平な規則を定め、その規則が守られるな状況をつくり、安定性を確立することです。最近、金融業界が大きく変化しています。調整機構が廃止された時には大嵐の中に救命艇を操る思いがしました。監督庁は出来るだけ多くの溺れる人を救命艇に救い上げるよう努力します。そしていつ必要な行動を取れば良いのかを判断すべく事態の変化を見守ります。

皆さんの中で保険の専門家の方は、過去10年間に起こった保険業界関係の大きな変化や傾向を認識されていると思います。金融業界における伝統的な4本柱である銀行、信託銀行、証券会社そして保険会社の壁は取り払われ、今や金融業界はひとつになっております。同時に金融界では国際化が進み、ますます多くの多国籍企業が世界のさまざまな市場や規則の中でビジネスを展開してきて

います。こうした傾向は、消費者や行政側、そして保険専門家にも、ある種のチャレンジとなります。消費者の立場からみると、国際化や一体化は選択範囲の拡大・価額競争の面から大きなメリットとなります。しかしその反面、こうした変化は、市場の混乱を招く恐れがあります。市場の混乱は会社や商品の数が多いほど、大きくなります。取締まる側から見ると、市場が多様化し複雑になると、消費者が困惑し、リスクの可能性が懸念されます。環境の変化は、少なからず混乱を伴うものであり、消費者が選択する際に、より困難になる事を我々は充分承知しています。消費者が困難になるということは、彼らがより大きなリスクにさらされることとなります。

保険の専門家にとり、国際化と一体化の傾向は大きなチャレンジとなります。カナダの保険専門家は、彼らを取締るCAIFA (Canadian Association of Insurance and Financial Advisors) と保険会社を取締るCLHIA (Canadian Life and Health Insurance Association) が定め、州政府が施行する規則に則って活動しています。日本とカナダの保険業界は、実務面ではかなりの違いが見受けられますが、職業分野としての規範は、決して矛盾するものではなく、互換性があります。互換性は重要な貿易関係にあるカナダ、日本の両国には、絶対必要であり、且つ望むべきものです。

保険会社の会計経理は、経営状態を正確に反映するものでなければなりません。その為には、会社の収益とそれに伴う債務の正確な記録が、最も重要なポイントとなります。保険会社が、新しい保険証書を発行する時には、収益を確保すると同時に債務の可能性が発生します。収益の回収には、通常、永い期間を必要とし、将来、支払いが予想される負債額は、その支払い時期と同様、予測することがとても難かしいものです。その為、金融・保険会社の会計報告は消費者にとり、解り易いものでなければなりません。特に遠隔地の場合はなおさらです。消費者は、正しい判断ができるよう保険の申込みをする前に、保険会社の会計報告によく目を通しておくべきであると思います。

この点に関連し、みなさんの中でもカナダ連邦政府の金融事業監督庁 (OSFI) が開発したリスクに基づいた新しい監督システムについてお聞きになった方がいらっしゃると思います。この方法は、会社の総体的なリスクを「低」「中」「高」と査定し、同時にリスクの方向性を「減少中」「現状維持」「増加中」と評価します。査定結果をその会社が行っているリスク管理対策の評価結果と合わせ、総合的な結論を出します。OSFI は、この総合リスク評価方式を採用する事で、より良い監督システムが出来あがり、より優れた消費者保護ができると確信しています。OSFIの主要監督項目は営業規則、営業方針、商品の品質・販売網となる人達の営業態度です。ご存知のことと思いますが、国際会計標準委員会と国際保険統計協会は、保険会計の標準化の開発プロジェクトを進めています。この標準化の狙いは、共通で基本となる会計審査方法を保険業界監督庁と国際監査官に提供する事にあります。

皆さんもよくご存知の事ですが、近年、世界の金融界は、アジア・ラテンアメリカ・東ヨーロッパでみられたように大変な騒動を経験しています。こうした出来事は、関係諸国の経済的に過酷な試練をもたらしました。この経済危機は、投資家に（北米の金融業界も）この問題に関係しているのではないかと、またこの他にも同様の問題を抱えているのではないかと、思わせてしまうという問題を引き起こしています。また、この危機で投資家が損失の穴埋めに資産を手放

している為、全く関係のない他の市場にも問題を波及させております。こうした国際的問題により、地理的に遠く離れ、全く異なった市場が最近ではとても身近に感じられるようになりました。また、G-7
各国の大蔵大臣や中央銀行の役人達に、グローバル化の影響と、それに対して彼らが何をすべきであるのか考えさせることにもなりました。報告書は、世界の監督庁間のより密接な国際協力と、監督庁がタイムリーに正確な情報入手できるような新しい方法の必要性を呼びかけています。そしてまた、監督庁が、現在は非管理下にある企業の監督の必要性を検討する良い方法を確立することを提案しています。そして更に最良の実務の国際基準強化を呼びかけています。市場が複雑になるにつれ、監督庁が消費者保護対策の強化に力を入れなければならないのは疑いのないところです。同時に、業界主導の変化は、現存する規則の合理化、標準化、調和を推進し、また監督庁間の複合・重複を削減するよう金融監督庁に圧力をかけることとなります。

本日の結論としまして、カナダ各地の監督庁が大変生産性の高い仕事をしてきたということをお願いしたいと思います。この点については、引き続きご覧戴きますスライドで皆様方にも充分ご理解戴けるとと思います。監督庁にとり、消費者保護の面で最も大切なことは、効果的な監督方法を確立することです。そのシステムとはダイナミックで競争の激しいカナダ市場で、効力を保ち、必要な情報を提供し、適切な救済措置が取れるようなシステムです。

1998年末、カナダ人口はやっと3,000万人でしたが、生命保険会社の数は139社でした。一方、日本には現在、約1億2,500万人の人がいますが、生命保険会社の数は46社です。これだけでもカナダの保険業界はいかに競争が激しく、また秩序正しく運営されているかお分かり戴けるとと思います。カナダの生命保険会社は、世界20カ国以上で営業活動を展開しており、保険料の47パーセントを競争の激しい国際市場から吸収しております。

カナダ各地の監督庁は、金融業界の規則が全て充分役目を果たし、且つ公平に施行される為、大変な努力をしており、将来もその努力を続けることを約束しています。最初にお話しましたように、カナダ金融関係監督システム、及びそこで働く人々は、信頼されており、カナダの内外を問わず、カナダの金融業界を利用している人々は、カナダの金融業界、個々の会社そしてその商品を扱う金融分野の専門家を信頼しています。この点も繰り返しますが、保険専門家と監督庁は健全で将来性のある保険業界構築のため、信頼を築き、維持させるという共通の目的に向かい努力しております。